

* 日本最古の天文台ドームにあった望遠鏡

アーカイブ室新聞第230号に「現存する日本最古(?)の天文台ドーム」という記事を書いた。国立天文台に残る最古の天文台ドームは8インチ赤道儀望遠鏡ドームで、1921年(大正10年)建設であるが、東京海洋大学(旧東京商船大学)構内には1903年(明治36年)建設の恐らく日本最古(?)の天文台ドームがあるという記事である。この記事を読んだ横浜のアマチュア天文家から、「私は、そのドームに入れてもらって中の写真を撮ったものを持っている」と写真を添えてご連絡をいただいた。この貴重な映像をその人と筆者だけのものとしておくのはもったいないと思い、そのアマチュア天文家にその写真をアーカイブ室新聞に掲載して、広く世の人にご覧いただきたいがどうでしょうかとお願いしたところ快く承諾をいただいたので、ここに紹介させていただく。

東京商船大学は太平洋戦争で無条件降伏した日本に進駐したアメリカ軍に接収され、そのドームの中の望遠鏡はアメリカ軍によって持ち去られ望遠鏡の架台だけが残っていた。そしてドーム内の壁には在りし日の望遠鏡の写真が掛けられていた。望遠鏡の架台と壁の写真が写っているものが写真1である。



写真1 日本最古の天文台ドームの中

壁にかかった写真に写っているのが、この架台に載っていた7吋赤道儀望遠鏡（写真2）である。

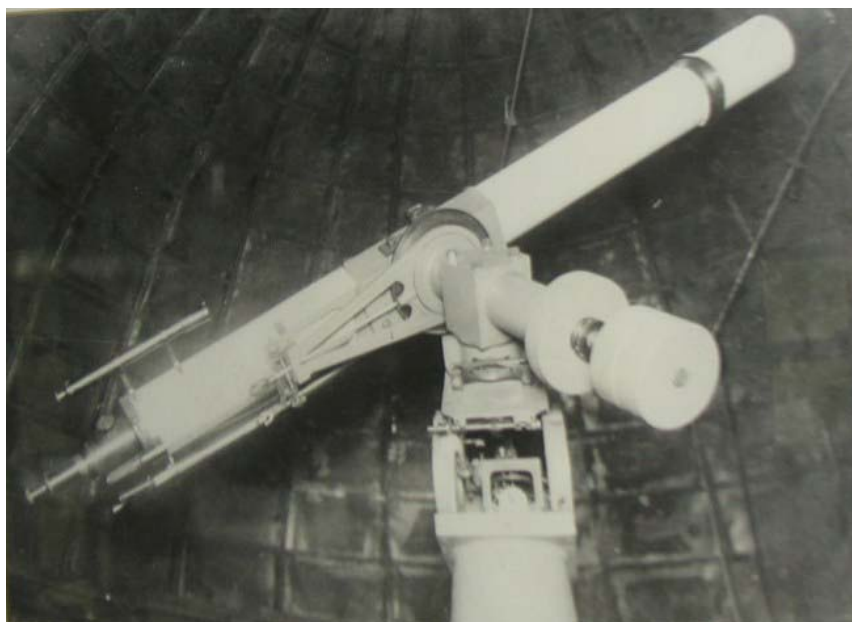


写真2 旧東京商船大学構内の第1観測台（ドーム）内の7吋望遠鏡
望遠鏡はなくなっているがドイツ式の架台(写真1)が残っている。この望遠鏡はイギリスのグラブ製で1903年の刻印(写真3)がある。



写真3 7インチ望遠鏡の赤道儀部 GRUBB DUBLIN 1903 の刻印が見える
送られてきた写真には玄関（写真4）、観測フロアへの階段（写真5）もある。なかなかしゃれた作りであることが分かる。ドーム内の写真もあり、ドームの構造もうかがえる。

観測フロアにはハッチ（写真6）を開けて登るようになっており、観測中はハッチを閉じて安全に観測ができるようになっていた。ドーム回転用のハンドル（写真7）もある。



写真4 ドームの玄関



写真5 観測床への階段



写真6 観測床のハッチ



写真7 ドーム回転用の手動ハンドル

ドームの丸天井部の写真8もあり、スリットの開閉機構が視える。ドーム天井部は高貴な屋敷の天井を思わせるような格子状になっていて優雅さを感じる。日露戦争以前の建築であり、日露戦争の莫大な戦費のため、国の財政が疲弊し、東京天文台が麻布から三鷹への移転がなかなか進まなかった頃の事情との違いを感じる。



写真8 日本最古の天文台ドーム(?) 天上部
第二観測台には子午儀が設置されていて、学生実習の様子の写真が残っている(写真9)。

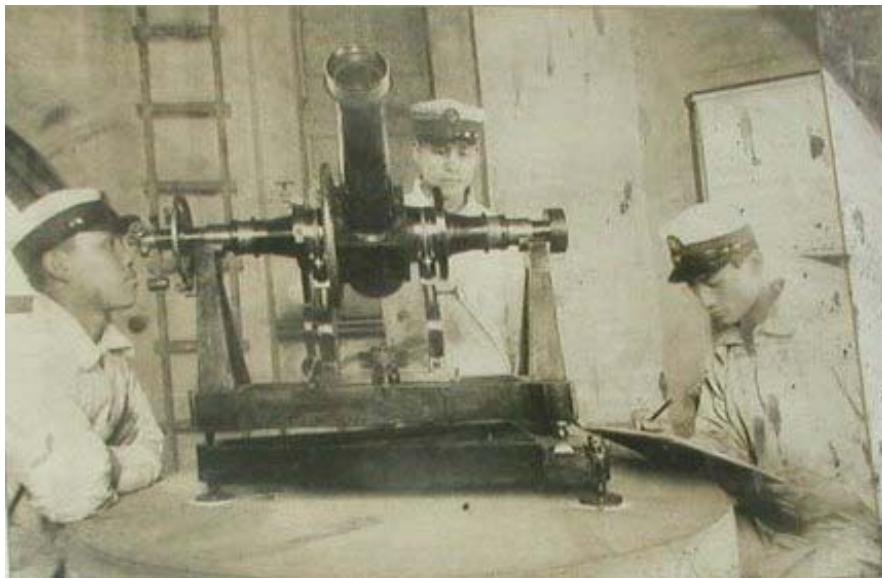


写真9 第二観測台(子午儀ドーム)の学生実習

東京海洋大学が設置してある解説板には、アメリカ軍は 1950 年（昭和 25 年）にこれらの望遠鏡を撤去したとあるが、なぜ撤去の必要があったのだろう。天文航法による航海術の講義、実習に使われるこれらの望遠鏡も軍事に関するものともいえるのであろうか？